

臨床研究，論文投稿を行うメリット，デメリット

上田真也^{†1)2)}第77回国立病院総合医学会
2023年10月20日 於 広島

IRYO Vol. 78 No. 4 (224-228) 2024

要旨

近年，病院内における薬剤師の立場は大きく変化しつつある。医療人としての存在価値を高め，さらに医療の質の向上，臨床研究への参画などを推進していくため，さまざまな技術や知識を習得し，現場に反映させていくことが非常に重要な課題となっている。そのため，国立病院機構で発刊された「病院薬剤師のためのスキルアップ×キャリアアップガイド」に研究発表，論文投稿が一般目標として示されている。

臨床研究，論文作成を行うことで得られる想像力・計画実行力・考察力・プレゼンテーション力などは日常業務においても有用となる。業務改善をするためには，業務の「見える化」は重要であり，数値化することやそれをまとめて報告を行うことは必要となる。また，日常業務そのものが臨床研究となることもあり，自身の塩田賞受賞論文も業務報告による集積データの延長線上にあった。

自身のキャリアアップにおいても有用であり研究発表，論文作成をしなければ取得できない資格も存在するため，それがモチベーションになる場合がある。しかし，個人のスキルや力量頼りのみではさまざまな課題に対応することは困難な場合が多く，組織として計画的に人材育成することが強く求められている。モチベーションの維持のためにも職場からの理解や上司・同僚のサポートが重要となるため，国立病院機構全体として体制を整えていく必要性を感じている。臨床研究，論文作成は今後も医療従事者において重要な役割となり，そのスキルは日常業務にも還元でき，臨床研究を行う力をつけることが医療の質の底上げにつながる。

キーワード 臨床研究，論文投稿

はじめに

近年，病院内における薬剤師の立場は大きく変化しつつある。医療人としての存在価値を高め，さらに医療の質の向上，臨床研究への参画などを推進していくため，さまざまな技術や知識を習得し，現場

に反映させていくことが非常に重要な課題となっている。しかし，臨床研究は日常業務に上乗せして行うため，負担を感じたり抵抗を示す方も多い。さらに，論文作成には環境面での整備も必要であると考えられる。そのため，今回は臨床研究，論文作成を行うメリット，デメリットというタイトルで若手薬

1) 国立病院機構茨城東病院 薬剤部 2) 国立病院機構東京医療センター 薬剤部 (現所属) † 薬剤師
著者連絡先：上田真也 国立病院機構東京医療センター 薬剤部 〒152-8902 東京都目黒区東が丘2-5-1
e-mail : ueda.shinya.sn@mail.hosp.go.jp

(2024年3月27日受付 2024年8月2日受理)

Advantages and Disadvantages of Submitting Clinical Research Articles

Shinya Ueda¹⁾²⁾ 1) NHO Ibaraki Higashi Hospital, 2) NHO Tokyo Medical Center

(Received Mar. 27, 2024, Accepted Aug. 2, 2024)

Key Words : clinical research, article submission